

これからの鈴鹿の図書館行政は？

鈴鹿市立図書館も開館してから30年以上が経過し、建物の老朽化はもちろん、人口規模や知の拠点として、新しく基本構想を考えるべき時期と考えています。そこで、東京都北区の旧自衛隊敷地内にあつた赤レンガ倉庫の一部を活用した図書館、千代田区の指定管理者制度を活用した図書館運営、函館市の地元大学と連携しての地域資料のデジタルデータ化とアーカイブ化事業を視察しました。これらを参考に、これからの鈴鹿の図書館行政を考えたいと思っています。

戦争遺跡を活用

北区中央図書館



八幡製鉄所の刻印のある柱

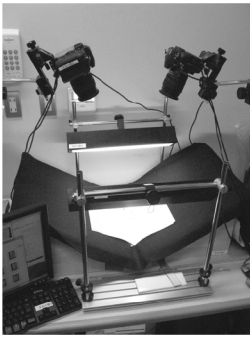
北区中央図書館の特徴は、旧自衛隊敷地内にあつた赤レンガ倉庫を図書館の一部として活用して、

図書館を含めた公園整備をしたことです。コンセプトは①「利用者が主役」の図書館、②「長く愛される」図書館、③「区民が活動する」図書館です。たとえば①について、長期滞留を意識した喫茶スペースの設置と、その隣に弁当の持ち込みも可能なフリースペースを設置するなどの工夫がされています。蔵書管理には世界初となる「Cタグを導入、裏面にバーコードを貼りつける形よりも、1冊あたりのコストが低くなることと、書架に本がある状態での蔵書管理が容易になったということです。

これらのような対応と、公園と一体化した図書館ということもあり、改築後、面積比で2.7倍とおなじように、利用者も2.7倍に、公園と一体化にしたことで、子育て世代の図書館来訪も増えているとのことでした。

写真資料をデータ化

函館中央図書館



図書館内に設置の設備

千代田図書館の特徴は、指定管理者制度を導入し、民間事業者の連合体によって運営され、コンシエルジュサービスを行い、千代田区の街情報提供の側面を持たせていることがあります。千代田図書館のコンセプトは①千代田ゲートウェイ、②創造と語らいのセカンドオフィス、③区民の書斎、④歴史探究のジャングル、⑤キッズゼミナールフィールドの5つです。

以下、新谷館長の言葉になりますが、図書館の方向性として「これからの図書館はまちを元気にする」というコンセプトが重要で、これからの図書館は、貸出返却だけの存在からの脱却して、情報を集積、常に新しい情報があり、古い情報にもアクセスでき、どう活用していくのかを提案するような編集機能が、業務に求められる時代ではないかとのことでした。また図書館職員には司書としてだけでなく、1丁の知識なども必要ではないかということです。

指定管理で新手法

千代田区中央図書館



お話が楽しい新谷館長

函館中央図書館の特徴は、一般書架閲覧は1階に集中され、広いスペースと高い空間となっていること、入口近くには箱庭的景観を持つ中庭や喫茶スペースなどもあり、来館者がゆったりと過ごせる空間構成で、映像鑑賞ホールなどもあることです。

特にデジタル情報に関する点では、函館市は公立函館大学と連携して、図書館内の機器を用い、職員自らが写真資料のデータ化を行っています。データ化された資料は、インターネット上にアーカイブとして提供され、さまざまな用途に利用されているということです。データ化は、蓄積されてきている活版写真や、絵はがきなどから進めていて、スキヤニングと文章の挿入などの作業を、市民ボランティアにもお願いしているということです。このような形で、市民と図書館のあり方が構築されていくことも、今後必要ではないかということでした。

私の考える 鈴鹿の図書館像は

しっかりとした構想のもとで

これらのことを参考にして考えると、やはりN-T-T西日本研修センター跡地や、白江土地区画整理地への図書館建設を視野に入れていのではないのでしょうか。北区の図書館を見ても、公園の利用もできることは、子育て世代からより広い市民の利用が見込めますし、それが街の魅力を高めることになると考えます。

その際に、行革的観点から図書館行政を考えると、千代田区の取り組みは一つの参考でしょう。中心になる図書館と、そこは違う色づけの分館で運営する考え方もありではないかと思えます。

また新しい役割として、情報を集積し、それらに必要な人に、的確にコーディネートしながら提供する図書館であるべきです。今できることとして、現在の職員への研修で、市民活動などへの情報提供を行えるようにスキルアップをすると同時に、より広い人材が活躍できるようにすべきです。

市情報のデジタルデータ化について、可能であれば学官連携をはかり、既存のソフトウェアを活用してシステムを構築することがいいと考えます。また、佐々木信綱や大黒屋光大夫など、歴史的な画像資料をデジタルデータ化しインターネットを通じて配信すれば、それを通じて観光まちおこしもできるのではないのでしょうか。

そのためにもしっかりとした基本構想を策定し、運営などにも市民を積極的に受け入れ、その上で運営される図書館が鈴鹿には必要だと考えます。

各種研修や講習への参加

09年に参加した研修や講習です。石油ピークの考えや危機管理についての考えは非常に参考になりました、また、人口減少社会に向かう中で、持続可能な社会をどのように構築していくかが、これからの地域社会を考えるとときに大切だと考えを新たにしました。

4/16-17 市議会議員特別セミナー

- | | | |
|------------------|----|--------|
| ・「国際社会が求める日本の役割」 | 講師 | 手嶋 龍一氏 |
| ・「地方分権の進展と議会改革」 | 講師 | 林 宜嗣氏 |
| ・「情報革命と地域戦略」 | 講師 | 月尾 嘉男氏 |
| ・「日本の教育の課題と展望」 | 講師 | 藤田 英典氏 |

5/21-22 自治政策講座「自治体の危機管理とは」

- | | | |
|-------------------------------|----|--------|
| ・「リスクコミュニケーションとその手法」 | 講師 | 吉川 肇子氏 |
| ・「新型インフルエンザなどウィルス感染症への自治体の役割」 | 講師 | 押谷 仁氏 |
| ・「災害対策に必要な自治体の備え」 | 講師 | 鍵屋 一氏 |
| ・「深刻な化学公害に対する自治体の役割」 | 講師 | 下田 守氏 |
| ・「危機管理と自治体議会の役割」 | 講師 | 竹下 譲氏 |

7/25-26 市民と議会フォーラム

- | | |
|-------------------------------|---------------------|
| 7/25 ◆全体会第1部 | ◆全体会・第2部「これまでの取り組み」 |
| 7/26 第2日目 第3分科会「議会改革から自治体改革へ」 | |
| 午前の部 「議会報告会について」と「議会だよりについて」 | |
| 午後の部 「市民と議会が政策をつくる」 | |
| 全体セッション 「議会が変われば、自治体が変わる」 | |

7/30-31 自治政策講座「持続可能な社会へ 自治体の再構築」

- | | | |
|-----------------|----|---------|
| ・「持続可能な社会へ」 | 講師 | 石井 吉徳氏 |
| ・「地域医療崩壊」 | 講師 | 平山 愛山氏 |
| ・「行財政改革の見直し」 | 講師 | 後 房雄氏 |
| ・「いま問われる地域社会政策」 | 講師 | 栃本 一三郎氏 |
| ・「農村地域の保全と再生」 | 講師 | 一ノ瀬 友博氏 |
| ・「総合計画の見直し」 | 講師 | 西寺 雅也氏 |

公共交通がヒントか ～その他の視察から～

6月、宇都宮市清原地域での、ジャンボタクシーを活用した地域公共交通を会派で視察。鈴鹿で同様の住民主体による地域公共交通システムを考えようすると、複数の行政区をまたぐため、地域協議会の立ち上げに十分検討が必要ですが、行政が公共交通のニーズを把握、そこから地域に事業提案をして、住民と協働で運行することを考える時期と考えます。

7月、建築水道常任委員会視察で、福井市と富山市のコンパクトシティ、長野市の中心市街地活性化を視察しました。福井市と富山市の取り組みから、公共交通と市街地の形成を関連づける考えは、鈴鹿にとって非常に参考になります。また、富山市も長野市も、市長が先頭に立って中心市街地整備に取り組んだとのこと、その点も非常に興味深いものでした。

2月、宮崎市の地域コミュニティ税と、都城市の部マニフェスト・部マネジメント改革を視察しました。宮崎市では、今年4月から一人あたり500円を徴収、地域に配分して活用する考えで、今後の動向に注目です。都城市では、部マニフェストはもちろん、部マネジメント改革が、市民サービス・住民利益の視点で、各部での市民へのサービス向上と、職員の意識改革の面からも、鈴鹿に参考になります。

議会と議員のあり方を考えています

今年は、去年の議会改革特別委員会で感じたことを受け、4月の市議会議員特別セミナー、6月に会津若松市議会、7月に市民と議会のフォーラムと、研修や視察を行ってきました。

それらを通じ、「市民と議会の関係」の根本を考え、議会のできることを見直し、活動を広げることが重要だと強く感じました。根

本とは「市民の意見を聞き、そこから議会として政策を形成する」ことです。このことを幹として、いろいろな改革を進めるべきだと

も。そのためには、先人の経験をふまえ、会津若松市で行っている市民との意見交換会を参考にしたいしながら、今までの枠にとらわれない市議会のあり方を考えるべきだと思っています。それらのこ

とは、研修先で知り合った多くの他の地方議会議員の方々から教えて頂きました。

議会改革では、地方と国政との関係も見直されるべきと思っています。いろいろな思想や信条があるとしても、地方議会も地方議員も守るべきことは、国会や国会議員の下請けのような形ではなく、自分たちの議会のある自治体の市民にとって、よりよい政治を求めることだと思っています。